

令和4年度第5回学校運営協議会 議事録

1 日時 令和5年2月10日（金）、14:30～16:00

2 場所 湖南高等学校 図書室

3 参加者

委員（敬称略・順不同）

小山 伝一郎、桑名 秀一郎、鈴木 勝美、和田 祐樹、片平 力也、酒井 祐治
事務局

星 祐司、森 修、熊田 厚志、三橋 和佳、五十嵐 稜

1 学年生徒

5名（総合的な探究の時間成果発表のみ）

2 学年生徒

2名（総合的な探究の時間成果発表のみ）

4 内容

（1）開会のことば

（2）会長あいさつ 小山会長

本日はご多用中のところお集まりいただきありがとうございます。今回は、今年度最後の協議会になります。また、次年度の活動内容についても協議されますので皆さんの忌憚のないご意見をお聞かせください。

（3）校長あいさつ 酒井校長

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。現在のところ、高校入試の志願者数は19名となっており、今後は入学者選抜の準備に入らせていただきます。また、昨日、郡山市役所において、郡山市の「一本の水路」ブランド認証を受けたので報告させていただきます。本日は、今年度最後の協議会となるため、課題や反省等を挙げていただき来年度の有意義な活動につなげていきたいのでよろしくお願いします。

（4）総合的な探求の時間成果発表

1 年生：地域カダイ探究

真似っこ作戦

2 年生：地域ミライ探究

①コナチキノバブ大作戦 ～福島 of 湖南を信じる未来へ～

②湖南町魅力再発見プロジェクト

(5) 学校からの報告 星教頭

コミュニティ・スクールとしての活動内容の報告

※資料5 ページから 11 ページの説明

(6) 協議「令和5年度のコミュニティ・スクールの活動について」

・令和4年度に実施した活動がベースとなって令和5年度も活動していく予定である。また、令和5年度は、「一本の水路」ブランド認証の他団体との連携や、「高校生による湖南の魅力発信事業」など、郡山市と連携して湖南高校の取組を発信していきたい。

・次年度は、県中建設事務所と意見を出し合いながら湖南の地域づくりのために取り組んでいく予定であり、高校生にも話し合いに入ってもらいたいと思っている。市と県と湖南高校で連携していけたらいいと思う。ただし、なかなか大変な取り組みになることが予想される中で、いかにうまく連携していくかが課題である。教員や生徒が負担にならないような連携を模索していきたい。

・「一本の水路」ブランド認証を受けたので、郡山市を利用してもらって積極的に学校をPRしてもらいたい。また、魅力発信事業については、郡山市のPRを担当している国際政策課の事業だが、湖南の魅力だけではなく湖南高校の魅力も伝えることができれば、持続可能な学校づくりにも繋がるのではないかと。

・昨日、一緒に「一本の水路」ブランド認証を受けた団体で、“菱”を使った商品を開発している団体があり、菱を校章にしている湖南高校としてもうまく連携できればいいと思う。

・郡山市からいろいろな情報を提供してもらい、できるかどうかは、それから判断すればいいのではないかと。「一本の水路」ブランド認証についても、湖南高校が郡山市を利用するのではなく、郡山市に湖南高校を利用してもらうことも考えられる。郡山市と学校がお互いに相談しながら取り組んでいけばいい方向に繋がっていくと思う。

・アンケートに表れているように、コミュニティ・スクールの活動についておおむね肯定的に考えている先生方が多いと思うが、昨今の教員の働き方改革や、生徒も帰りのバス時間の関係で限られた時間の中での活動となる。「計画して」「実施して」その成果を「振り返って」というのは、探求の学びの方法でもあるし、社会に出てからの仕事の仕方についての学びでもあるので必要なことだと思いつつ、時間の制限があることから取捨選択していくことが大事だと思う。ただし、生徒たちの成長につながる部分、ひいて言えば「先の読めない社会の中で生徒に身につけさせる力は何なのか。」ということを見ると、「正解のない問いに対して自分たちで考えて作っていく。」というプロセスに学びの価値があると思う。時間の確保について教科を横断しながらできることが理想である。全てを総合的な探求の時間とLHRでやろうとすると限界なのではないかと思う。

・先ほどの生徒の発表の中で“エコツアー”という言葉があったが、今後、ビジネスの中に“SDGs”や“環境”を意識したものが増えてくることが予想され、その時は、生物多様性という環境を守っていくことが重要となってくる。郡山市は、猪苗代湖と一本の水路でつながっており、水環境とされているのが湖南町であるため、湖南町の環境が失われることによって市街地が脅かされるという構造になっている。そのため、今後、郡山市として湖南町や猪苗代湖の環境を守っていく必要があり、ビジネス的な側面からも湖南町は注目される地域となってきた。そこで、また高校生との連携という話が来るかもしれないが、何を選んで何を大切にしていくのか、しっかり選択していく必要がある。エコツアーや環境について取り組む場合は力になりたい。

・これまでの生徒たちの活動を見ても一生懸命取り組んでいる姿が見られるため、令和5年度については、もう少し継続的に活動してみて、止める活動と継続する活動を選択していけばいいと思う。

・今のところ、総合的な探求の時間の方向性としては、3つの「つ」ということを考えている。継続として実施するのが、六次化商品の「つくる」と動画作成などで湖南の魅力を発信する「つなぐ」で、3つ目として、“ぐっと湖南”や“民話”、そして“湖南の歴史”などを伝承していくということで「つたえる」を考えている。

・学校としては、「湖南の魅力を全世界まで発信しよう」という目的があるので、今回郡山市から提案されたInstagramの利用というのは、私たちとしてはチャンスと捉えている。あまり制限を加えず、生徒たちが自由に文章を考え写真を撮って、郡山市に選択してもらいながらInstagramにアップできるようにしたい。そうすることで、生徒たちも主体的に動き出すことができると考えている。

・また、2年生で“観光ビジネス”という授業を履修することになっている。授業内容については、商業科が担当するが、東京国際大学講師の前好光先生や前先生関係の方々に特別講義をやっていただく予定である。観光といってもホテルを作るとかではなく、湖南ができる観光というものを勉強しながら、観光とInstagramをうまく結びつけることができれば、湖南をいろんな方に知ってもらえるのではないかと考えている。情報発信と、“観光ビジネス”という授業でどれだけ連携を図っていけるかが課題だと思っているので皆さんのお知恵とご協力をいただければ幸いである。

・令和5年度の学校運営協議会の開催時期については、今年度同様、5月、7月、10月、12月、2月の5回の開催としたい。また、委員の任期についても2年間ということから、引き続きよろしくお願ひしたい。

(6) 閉会のことば